

グループホーム 高野

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		昨年見直し変更した理念に添って、職員各々が「安心して、楽しく生活出来るグループホーム」であるにはどの様に入居者様と共に生活し、地域との連携が深められるのか日々の生活の中や行事を踏まえて、意識を持って支援している。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		毎朝の申し送り時に、理念を全員で唱和し共有している。又、理念に添ったケアが出来る事を念頭において 入居者様の自立支援に取り組んでいる。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		運営推進会議やボランティア来訪時、見学者来訪時に運営理念をお伝えしたり、関連施設やボランティアセンター、かかりつけ医院、地域包括支援センター、ご町内へ「手作り季刊誌」やパンフレットをお持ちして、地域の方々に理解して頂ける様努めている。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		日中はデイサービスの大玄関をグループホームと共用の玄関とし、地域の方が気軽に訪問できるようにし、ウェルカムボードの作成により 訪問しやすい様に配慮している。通勤時、散歩時の挨拶は欠かさず行い、農作業の合間に高野敷地内トイレを解放している。農作物の収穫など頻回に持ち寄って下さる。グループホームからは入居者様の手作り品などをプレゼントしている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		地区社協へのお手伝いを申し入れていたので、長尾小学校にて開催された4年生70名の福祉体験授業のサポートに3名の職員が出向いた。校区納涼祭、校区敬老会参加や学童クラブ活動への参加を実施した。又、恒例の高野夏祭りには 町内36軒を訪問し来所を促し30名を越す参加を頂いた。今年度より始まった町内会活動として、山田川清掃に職員がお手伝いに参加した。

グループホーム 高野

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	町内活動として、山田川の清掃活動に参加した。地域の高齢者の方達へは、夏祭りや高野での行事への参加を促す折に36軒、1軒1軒お声掛けするので その時に独居の方達からは 日常の相談など受ける事があり 対応している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員研修などで 外部評価の意義を説明し全員が理解できる様指導している。職員全員が自己評価作成に参加する事により、更なる理解を深め 日常業務の個々の気付きとなって見えて来ている。又、改善点に取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回現況報告を行い、推進会メンバーより意見を頂いている。行事内容の検討や運営上の相談事も広く意見を聴くようにしている。本年5月より昼食、夕食の調理が開始となり 事前にご提案やご要望を頂いた。又、入居者様のケアについても率直に意見交換の場を作っている。ご提案のあった事柄は、対応出来る事から実施している。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターやボランティアセンターへ季刊誌を配布し 情報交換を行っている。市、区、校区の社会福祉協議会よりの協力の要望がある時は いつでも対応出来る様にしている。本年度は昨年に比較して 協力、交流の場が格段に増えている。実施協力する事により 職員の業務への意欲が高まった。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	人権研修の中で 昨年に引き続き、権利擁護について更に学び、現時点で制度をご利用されている入居者もおられるので 身近な事として職員が捉えている。入居者ご家族より問い合わせがあり、そのうち12件は管理者が説明し対応した。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に全職員の目の届く所に、高齢者虐待防止への対応と養護者支援についてのマニュアルを設置している。グループホーム協議会主催の研修会に職員が出席し、研修報告を職場に持ち帰り 社内研修の場で全職員へ周知徹底し ケアに役立てている。虐待はありません。		

グループホーム 高野

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	必ず文書を作成し 入居者様やご家族が充分理解して頂ける様に時間をかけて説明している。又、文書は2部作成し 1部はご家族へお渡ししている。質問にはいつでも丁寧に対応する様心がけている。		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	管理者は日々のケアの中で 入居者様が話しやすい環境作りに配慮し、声掛けを怠らない様にしている。リーダー、その他職員も常に入居者様の声に耳を傾ける姿勢でいる。EVホール前にご意見箱を設置し 投函して頂いたり、相談員派遣制度の利用により入居者様の思いが届くようにしている。相談員来所時は 状況を伝え連携を密に対応している。		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	毎月の「高野だより」発行により 個別にお知らせしている。(体調、ADL、IADL、医療費、買物などの金銭管理、その月の生活の様子など) 職員の異動等は運営推進会議やEVホール前の掲示板、季刊誌などでお知らせしている。		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	ご意見箱の設置や毎月グループホーム高野への連絡表をお渡しし、広くお声を聴く様にしている。何通か 郵送手渡しにて管理者へ届いている。要望に答えられる事には対応し、必ずお返事をする様に対応している。文面については、その都度職員へ伝達している。ご家族訪問時は必ず管理者・職員が挨拶し 日頃の様子をお伝えし、その中でご意見などあれば受けている。又、運営推進会議の場で意見交換を行っている。		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	毎月の社内研修や職員カンファの場で意見交換を行っている。全員で話し合い 改善できる事は実施している。職員の気付きなど良い提案は積極的に取り入れている。(例)誕生会のあり方についてなど		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	年間予定表を年頭に作成し、各担当係りの行事や予定などを入れている。各担当が連絡調整を行い、スムーズにシフトが組まれている。		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	異動・退職者が少なく、馴染みの関係をしっかり構築し継続出来ている。管理者は、職員が働き易く 働き甲斐のある職場を目指して努力している。万一 異動・離職がある場合は、ダメージが起きない様 全職員で配慮している。		

グループホーム 高野

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>年齢や性別などで排除はしていない。現在、20代～60代まで職員は幅広い年齢層である。個々の職員のスキルアップを目指し、資格取得・研修受講を啓発している。今年度は介護福祉士1名合格にて、職員18名中10名が介護福祉士であり、サービス体制強化加算()を受けられた。皆の励みにも繋がった。職員個々の資質や意見が反映される様管理者は気配りをしている。</p>	
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>行政やグループホーム協議会の研修参加を促している。社内研修でも取り上げて、本年度は富野市民センター館長をお招きして研修会を実施し、日々の業務へ反映している。</p>	
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者・ケアマネ・リーダーよりステップアップの指導をし、職員個々が向上心を持ち、研修参加や他事業所への職員職場交換研修、他事業所見学など積極的に勉強している。法人内では外部講師を招いてデイサービスと合同にて研修会を実施したり年間研修計画に添って毎月一回夜間(2～3時間)の研修会を行っている。</p>	
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>本年度はGH協議会を通じて、地域や地域外の同業者とのネットワーク作りが出来ている。研修会にも毎月参加している。校区行事で交流を持った場面や日々の業務や運営上の件で質問疑問点など気軽に相談できる様になった。職員職場交換研修は取り組みの一つである。当ホームのボランティア室を協議会の会議の場として開放し、高野を知って頂く良い機会になっている。その時、色々なご意見なども頂いている。</p>	
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>管理者や各リーダーに直接相談したり、職員同士が互いに悩み事や相談が出来る信頼関係や雰囲気作りに努めている。職員より相談・提案があれば直ぐに対応できる事はしている。職員の意見が発言し易い場を設けている。毎月の社内研修前の食事会等で雑談を交えてチームワークを養っている。</p>	

グループホーム 高野

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員個々の性格や能力を把握し、更なる能力アップに向けて課題を与える事により 向上心に繋げている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人が話し易い雰囲気や環境作りをしている。又、ご本人より聴けない場合は ご家族や担当ケアマネ・ソーシャルワーカー・ケースワーカーより情報を得ている。高野独自のアセスメント表に基づいて進めている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族からの電話の問い合わせや見学に来られた時は 丁寧に対応し、ご家族の困り事や訴えを聴く様に努めている。又、ご家族の思いを出し易い様な問いかけや雰囲気を作っている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の訴えや状況の確認をしっかりと行い、ご家族の訴えをよく伺い グループホームでの生活がご本人に適しておられるか見極め、そうでない場合は他のサービスをご紹介している。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居申し込みの段階(待機中)より、高野の行事などへの参加にお声掛けをしている。入居当初は 職員・他入居者の協力により声掛けを多くし、馴染みの品の持込みを促し、なるべくその方の入居前の生活ペースに合わせる配慮をしている。又、ご家族へは慣れるまで定期的に来訪して頂いたり 場合によってはグループホームと自宅を交互に生活して頂いたりしている。徐々に慣れる様に努力している。ご家族との連絡は密に行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	各入居者様に担当制の職員を付けており、その方をしっかりサポートしている。職員が定着しているので 馴染みの関係が構築出来ている。世間話が頻りに飛び交い 会話も多い。又、その会話の中で職員の学びも多いと感じられる。レクリエーションにも力を入れているので 皆で何かをする事も多い。個別も大切にすが、西棟においては集団での行動が安心出来るようである。入居者様9名と職員が一つに良くまとまって生活している。		

グループホーム 高野

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の様子や変化を細かく連絡し、ご家族と共にご本人を支えている。家族交流会や行事への参加を促し、一緒に楽しく交流が持てる様努めている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者様が穏やかにホームで生活され、その様子を目にする事により、次第にご家族も優しい眼差し、気持ちで接しておられる。間を取り持つ大事なポジションに職員は位置し、正しい情報の伝達に心掛けている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅より馴染みの品を持参して頂いている。草花なども中庭へ次々と搬入し、自宅同様の手入れをしている。仏壇や大型家具なども搬入している。又、友人・知人などの来訪もある。要望があれば、電話連絡の支援もしている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	毎日の申し送り時に個々の日々の状況報告があり、全職員へ伝わる様にしている。その中で問題点があれば、注意深く状況判断し、関係がスムーズに行く様に配慮している。困難事例であれば、職員カンファを開き問題解決に繋いでいる。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院・他施設へ入居などで退去された場合は、時間の取れる限り継続して何う様になっている。又、その様子をご家族へ連絡する場合もある。退去されたご家族が来訪されたり、退去後の様子の報告なども電話連絡がある。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の生活歴をセンター方式などの活用や、ご家族の情報、日常の会話の中で、思いや行動の見極めを行い、その都度希望や意向に添える様努力している。困難な場合は、ご家族の協力を得て実現できる様にしている。		

グループホーム 高野

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の活用を実施している。ご家族の方にも協力を頂きBシートのお記入をお願いし、ご家族の方にも入居者様の生活歴を今一度思い起こして頂く良い機会になっている。職員との共同作業なので、担当職員もその方がより詳しく理解出来ている。結果をモニタリングやケアプランに反映している。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の日中・夜間の様子を申し送りしている。日々の生活の中で気付いた事や、本人が持っている力を情報共有ノートを活用し、口頭だけでなくノートに記録として残している。職員の情報の共有に繋がっている。毎月モニタリングを実施、総合的に生活の指針に活用している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者会議を開催し、ご本人・ご家族・医療関係者・担当職員の総合的な意見交換をし、「ご本人がどのような生活を望んでいるのか、何に困っているのか」を伺い、気付き、ご本人の状態を見極めてご本人主体の介護計画を作成している。又、毎月モニタリングを実施し、課題の再確認を行っている。その結果などは、全職員が把握するようにしている。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のモニタリング施行により、現状の変化に応じたプランの変更を行っている。期間に応じて、又、期間内であっても状態に変化があった場合は、その都度担当者会議を開いて新たな介護計画を作成している。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中・夜間と介護計画に基づいたケアを行い、それに対しての個別の記録を残している。又、毎月のモニタリングを通して、介護計画の見直しや情報の共有も行っている。情報共有ノートなどの作成もしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスと併設しているため、多動・徘徊の方などは協力を得ている。デイサービスの足湯の利用や 農作物の共同栽培なども行っている。現在、男性ボランティアの協力も得られている。行事毎の共同開催により、大勢の方とのかわりを持って頂いている。希望があれば ご家族にも宿泊して頂いている。		

グループホーム 高野

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	昨年に引き続き 学生ボランティアや、本年度は里親宅に居住の学生ボランティア、周望学舎シルバーバンク活用や、一般のボランティアが定期的に来所している。福祉体験ボランティアの受け入れも行い、ご利用者に好評を頂いている。消防避難訓練だけでなく救命救急教室は毎年定期的に行っている。AED操作も必ず実習している。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	グループホーム協議会を通じてのネットワーク作りを行い、必要が生じた場合は 相談・話し合いの場を持つ準備は出来ている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議のメンバーとして、包括支援センターの職員と連携が取れている。困難事例など相談し、適切なアドバイスを頂いている。本年度は、小倉南地域のグループホーム交流会なども開催して頂き 大変有意義であった。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	4週に1度の往診により、入居者様やご家族より安心頂いている。少しでも異常の見られる時はすぐに受診し、相談し易い関係を築いている。内科・外科・整形外科・肛門科・耳鼻科などの協力医がご家族の大きな安心に繋がっている。入居時には、ご本人・ご家族の急変時の対応なども文書により希望を記載し その通りに実施している。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入居者様は 認知症専門医に受診しており 受診時に認知症状や服薬に関する質問や相談をしている。又、新たに受診する場合は、ご家族やソーシャルワーカーと連携を図り不安なく受診出来る様支援している。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携体制加算導入により、週1回非常勤の看護師が職員として勤務し 日常の健康管理やかかりつけ医への連絡もスムーズになっている。医療的な疑問点や頓服の服用や急変時の対応なども相談でき、職員のケア負担の軽減にも繋がっている。入居者様との馴染みの関係が出来ている。		

グループホーム 高野

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院した場合は、様子伺いを頻繁にし、状況把握に努め、医療連携体制加算導入による看護師の協力も得て、早期退院に向けて情報交換をしている。又、退院時は病院にて担当者会議を経て退院日を迎えている。</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居時に、重度化や終末期ケアの指針をご家族に説明し、理解を頂いている。状態の変化に伴い、繰り返し話し合いを行い、各メンバー・チームで方針を共有している。</p>		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>昨年、作成出来なかったより詳しい重度化・終末期ケアのマニュアルを作成した。現在、重度化されている方はいないが、先を見越した検討や準備も今回のマニュアルを参考に日頃より考えている。</p>		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>前例が1例ある。その後、ご家族とも良好の関係であり、転居先ホームへも訪問したり、ホームから入院の時などは連絡が入り、大変助かった。転居先へは十分な情報提供を行って、質問にも対応した。</p>		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員一人一人に意識付けを行い、その方の尊厳を大切にす様配慮・指導している。記録などは一括保管し、持ち出し禁止や知り得た情報の口外を禁じている。定期的なボランティア来所者にもプライバシー保護の為、誓約書を書いて頂いている。</p>		

グループホーム 高野

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	その方の情報・しぐさ・身振り・表情などから 速やかに要求を察知する様心掛けています。又、本人に分かり易い手段で丁寧に説明し、自分で決める事が出来る様支援している。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の一日のホームでの流れはあるが、常に入居者様一人一人のペースに合わせて 個別ケアに努めている。その日の希望を口にされる事もあり(外出・買物など)出来るだけ実現出来る様にしている。レクリエーションの参加もご本人に確認し、自己決定を尊重している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご家族の協力を得て、希望があれば馴染みの店へお連れして頂いている。美容室などは好みの店へ職員が何人かお連れしている。毎日の更衣の際は、自身で衣類を選んで頂き、お化粧品なども声掛けしている。外出時や行事の時は 普段と違うおしゃれを楽しんで頂いている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	本年5月より 本格的に調理開始となり、メニュー作りへ参加頂いたり 調理も入居者様と共に行っている。配膳を手伝ってくれたり、希望者が多い後片付けを仲良く順番でして頂いている。漬物作りや干柿なども皆で作っている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個別レクリエーションとして、職員と買物に行き 好みの品を買っている。又、毎晩ビールを飲用の方 ブランデーを飲用の方もおられる。他の入居者様への配慮もしている。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用している。必要な方には 定時誘導を行い、失敗のない様配慮している。過去、リハパンから布パンツへ移行成功例がある。		

グループホーム 高野

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	だいたい決まった時間に入浴しているが、その日の気分や体調などで、夜間の入浴など個別に行っている。ゆっくりと入浴時間を取り、ご自分の使い慣れた好みの入浴グッズで、楽しく入って頂いている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	職員全員が その方の生活パターンを周知しているので、日中休息が必要な方には声掛けを行い ゆっくり休息して頂いている。西棟には 食後必ず臥床される方がおられる。昼夜逆転が起きない様 日中は離床を促し夜間はゆっくり眠れる様支援している。照明などへの配慮もしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その方の生活歴を ご家族の協力などで知る事によりケアに役立てている。例えば 職歴に合ったホーム内での活躍の場を設ける。趣味や興味を知る事によりレクに役立てる。 性格に合った支援を提供する。又、出来る限り棟外散歩で外気に触れて頂き、買物レク・外食レクなどで個別に対応し 生き生きと生活出来る様支援している。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理の出来る方は ご家族との話し合い了解の下、3名の方が手持ち金を管理している。決まった場所に保管しているが、時々場所が変更している。把握に努めている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出は 日々の散歩に始まり、畑の手入れ、花壇の手入れ、個別でのその方の目的に添った外出、買物や大勢でのドライブ、ピクニックなどかなりの頻度で戸外へ出ている。本年度はGH専用車を購入した。希望があれば 出掛ける準備はいつでもある。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	レクリエーション担当職員により 年間計画を立てているが、外食に懐石料理を取り入れたり 博物館(ご家族同伴)や野外コンサート、桜見物など実行した。外出目的地への現地家族集合、現地解散が好評であった。		

グループホーム 高野

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	常にご家族からの電話でのやり取りは、希望があれば全て実施している。季節の便りは欠かさず自筆(支援あり)にて、書いて頂いている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来所持には、居室やテラス・中庭・ホールにて会話が楽しく出来る様支援し、居心地が良いように工夫している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修会を開き、常に職員の意識の中に身体拘束をしないケアを周知徹底している。現在、身体拘束にあたる事はありません。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	西棟玄関の鍵はかけていない。居室などの鍵もありません。常に入居者様を見守り、テラス・ベランダ・外に出掛ける時、ケアの持ち場を離れる時など 職員同士が声を掛け合い 付き添っている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	共同生活においての 食事やレクリエーションの声掛けや促しを行い、個々の生活ペースに合わせた所在確認を行っている。夜間は転倒事故のない様 2時間おきの巡視、危険を伴う入居者様に対しては状況を把握し、巡視回数を増やしたり 近くで見守り待機をしている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	生活リハビリ等で入居者様が触れる場合もあり、その時の状態を把握し 安全に使用する事が出来 保管管理出来る様に工夫している。又、誤飲などの危険性がある為 常に物品の確認をしている。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	救急救命対応研修を全職員が受講し、避難訓練実施などで 役割の確認を職員一人一人が自覚している。行方不明時は 対応マニュアルを作成し 全職員が周知徹底している。ヒヤリハットは欠かさず記入している。事故発生後は 必ず職員カンファを実施し 防止に取り組んでいる。		

グループホーム 高野

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	地区救急隊の協力により、救命救急教室を毎年定期的で開催している。AEDの活用方法は繰り返し学習した。看護師の指導の下 急変時の対応など、協力・指導・指示を仰いでいる。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年3回(1回は夜間想定)実施している。職員にはマニュアルを作成し非難ルートを理解し、誘導出来る様にしている。地域の担当消防署との連携も取れている。備蓄品として、毛布・水・食料・医療品・懐中電灯なども準備している。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	リスクについては、職員間やご家族と普段からよく話し合っており、ご家族の気持ちなども踏まえたケアを行っている。起こりうると考えられる事は 全て説明し、理解を得ている。又、対応出来る事は 全て行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックを実施し、食事量や排泄のチェックなど体調管理には万全をきしている。ご自分で状態を正確に伝えられない方には 特に配慮している。異変に気付いた職員は全職員に変化を伝え、情報の共有を図り対応している。情報共有ノートの活用をしている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在 ホームでどのような薬の処方がなされているか一覧表を貼り出し、効能などの理解を深めている。担当職員は、その方の病歴を含め 服薬・軟膏・外用薬の理解をしている。誤薬防止の為、服薬時はその方の名前を大きな声で呼称・確認し、服薬終了後も確認している。新しく処方された薬に関しては、必ず評価し、医師・看護師・全職員へ伝える。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	その方の排便パターンを知り、便秘にならない様 水分摂取チェック・食事量・運動量などに注意している。特に便秘がちな方には、毎朝 牛乳や野菜ジュースを飲用して頂いている。便秘になった場合は 医師処方による服薬を行っている。		

グループホーム 高野

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアの声掛け、確認を行っている。義歯の洗浄介助、残歯のケア介助、磨き残しのケアなどその方に合ったケアを行っている。又、かかりつけ医との連携が取れているので、ボランティアでの検診などもして頂いている。西棟は毎週水曜日に義歯洗浄剤で洗浄し、口腔ケア用具も殺菌消毒している。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全量摂取して頂ける様メニューを多様化し、工夫し、摂取量チェック表に記入している。体調や口腔の状態、嚥下不良の方に合わせて、一人一人の食事形態を変えている。水分はお茶だけでなく、牛乳・ジュース・ポカリスエット(脱水を起こし易い方)など 嗜好品でも摂って頂く様にしている。1度に召し上げられない方には、数回に分けて食べて頂いている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	西・東ともマニュアルを作成し、感染症予防の為 手洗い・うがいの励行をしている。ノロウイルスに対しては、夜勤者が毎晩 テーブル・イス・手すり・車イス等を除菌している。入居者・職員は、手拭きタオルの共有をしていない。トイレのタオルは、個人別である。ピオシラビングの設置、インフルエンザの予防接種は入居者・職員全員が受けている。又、本年度は 肺炎球菌ワクチン接種も13名の入居者が受ける予定になっている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	夜勤者が 毎晩 日常使用している調理器具に関して消毒している。台所廻りの清掃や、冷蔵庫の中も1週間に一度アルコール消毒を行い 食材はその日の内に使い切るようにしている。チェック表の記入も毎日している。職員・入居者様の手洗いを励行し、タオルの共有はしていない。(ペーパータオルの活用)		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	グループホーム1Fエレベーター前には ウェルカムボードを立て、分かり易く入り易い雰囲気を作っている。外の玄関には 植木鉢などを配置し、親しみ易く和やかな雰囲気を演出している。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外の明るさとの調和を考え、ホーム内の照明に注意している。BGMは適度な音量で流し、選曲にも配慮している。季節を感じて頂ける様なディスプレイを入居者様・職員が一緒になって行っている。西棟は壁一面に高野新聞で、月毎の行事や日常の様子を掲示し 楽しんで頂いている。馴染みのある個人用食器や入浴グッズを使用している。どこでもくつろいで頂ける様、椅子を配置している。職員の係りの仕事に環境整備があり、どの共有空間も 清潔に保たれている。		

グループホーム 高野

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テラスでの散歩、中庭での花栽培、漬物や干柿作り、俳句作り、習字など 個々に合わせた居場所作りの工夫をしている。くつろげるスペース作りをして、入居者様同士が気軽に会話ができる様、見守りと声掛けを行って、状況に応じては 職員が仲間に入りコミュニケーションを取っている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談し、馴染みの品や使い慣れた品を持ち込んで頂き、居心地よく過ごせる様配慮している。冷蔵庫や大型家具・仏壇なども持参されている。足りない物は一緒に買い物などに行き、購入している。新聞も個人で契約されている。居室の壁面は、ご家族の写真や行事の写真を掲示し 心が安らく様になっている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	感染予防などの事もあり、窓を開けてこまめに換気している。空気清浄器を設置し、定期的に換気をしている。各居室やDルーム・風呂場には、温度計を設置し 温度差のない様配慮している。又、ご本人の意向を尊重しながら 衣服で調整している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差のない構造で、下肢筋力低下の方や 転倒リスクの高い方に配慮されている。又、身体の状況により シルバーカーや歩行器を利用出来る様にしている。手すりは 多数設置している。廊下や共有スペースは 広くすっきりとしている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	日頃から、全職員がその方の残存能力を把握し、出来る事、意欲のある事はして頂くよう声掛けしている。混乱している時は ゆっくりと説明し、手順を追って無理なく 失敗のない様支援している。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	周囲の緑の中を散歩したり、畑を耕し、農作業をして花や野菜が育つのを楽しんでいる。広いベランダでは 花火大会・バーベキュー大会・写生大会・お茶会などを開催している。入居者様の日々の日光浴や散歩、気分転換の場になっている。		

グループホーム 高野

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム 高野

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	数日に1回程度
		<input type="checkbox"/>	たまに
		<input type="checkbox"/>	ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	全くいない
100	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホーム高野は、緑の中に田舎の原風景を五感で感じる事ができる恵まれた環境に位置しております。入居者様に安心して、安全に楽しく生きがいを持って生活して頂ける様 日々職員一同取り組んでいます。地域の皆様や 多様なボランティアの方々のご協力により 高野農園の充実は目を見張る規模となり、収穫も増大し 毎日新鮮な野菜が食卓へ上がります。

高野での「安心・安全・楽しさ・生きがい」とは、その方にとってどんな生活であるのか？職員一人一人が「その方らしさを大切にする」という目標に向かって、日常の業務の中で 話し合い工夫を重ねて日々研鑽しております。ご本人様やご家族様、又、地域、ボランティアの方々、そして 職員各々から「高野で良かった！」の一言を頂ける様 頑張っております。